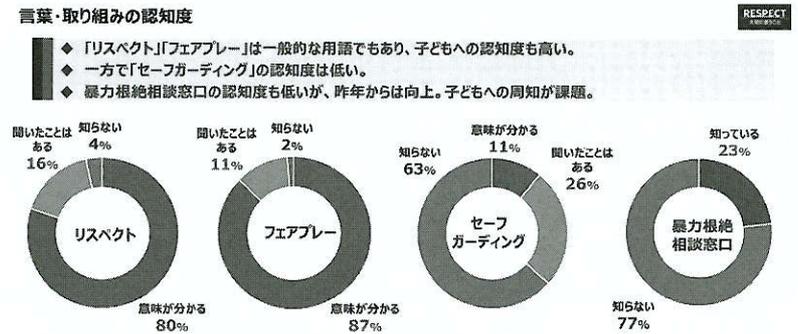
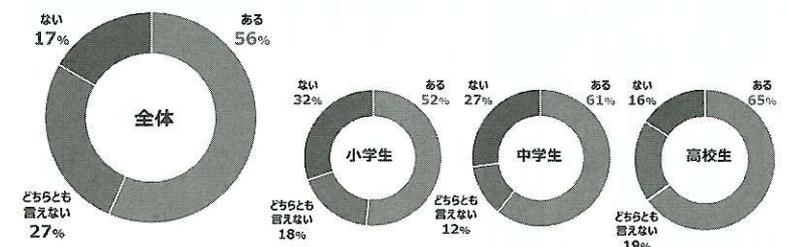


■表2 U-18子どもパブリックコメント2024 実施報告(抜粋)



みなさん自身、もしくは周囲の仲間が、いやな思いをしたり、サッカーをやめたくなったりした経験はありますか？

- ◆ サッカーは楽しい一方で、半数以上がいやな思いややめたくなったりした経験が「ある」と回答。
 ◆ 年齢が上がるにつれて、いやな思いややめたくなったりした経験が「ある」の回答の割合が増える。



〔サッカーが楽しくない理由〕

- ・監督・コーチが暴言を言うから(多数)
- ・サッカーは楽しいけれど指導でいやな思いをすることがある
- ・ミスしたのがわかっているのに文句を言われる
- ・上手い子との格差、扱いの違い など

〔嫌な思いをした理由〕

- ・指導者からの暴言、強い口調
- ・プレーを責められる、けなされる
- ・お前のせいで負けたと言われた
- ・チームの雰囲気が悪い など

〔早めに相談をして、嫌な思いを解消・解決するために自分たちができること〕

- ・とにかく自分の気持ちを伝える
- ・みんなで解決する、団結して支える
- ・決め事をつくる
- ・声掛け、相談しやすい環境をつくる など

〔早めに相談をして、嫌な思いを解消・解決するために大人たちができること〕

- ・子どもの話や意見を聞く
- ・問題ある指導者に客観的に自分がやっていることを見せる
- ・指導が正しいか確認すること
- ・ミスを怒らない ミスしたくてしているわけではない
- ・大人がはずかしくない行動をとる
- ・見て見ぬふりをしない など

●全ての結果報告はこちら ▶▶▶▶



きに「相談する」と答えた子どもが60%と過半数を超えたことはポジティブな結果となったが、「相談したいけど難しい」と答えた子どもたちの中には、相談した後の処遇を不安視する声が多くあった。

また、大人に対しては、話を聞いてもらいたい、大人として恥ずかしくない行動をとってほしい、見て見ぬ振りをしてほしくないなどの要望も寄せられた。

今井委員長は、子どもたちの声

〔Jリーグの取り組み〕

全クラブに独自の行動規範ワークショップも定期開催

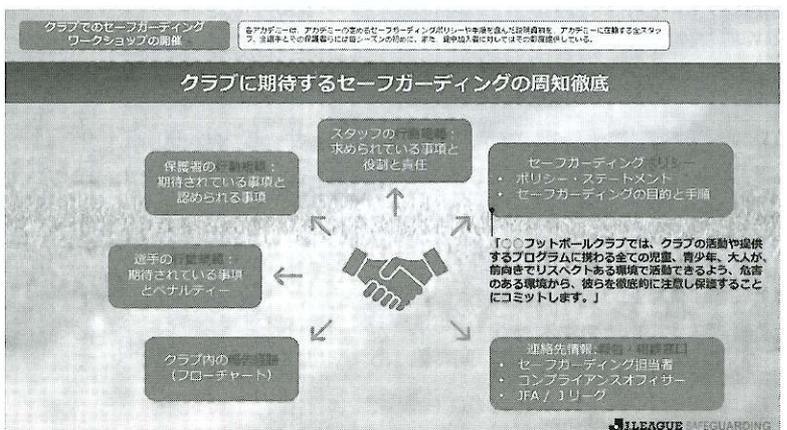
Jリーグは19年から、JリーグおよびJクラブ全体でセーフガー

を聞くことの重要性を訴えつつ、「子どもたちの声をしっかりと受け止め、今後この声をJFAとして取り組む際の根拠にしていきたい」と話した。

ディングを推進している。子どもや選手だけでなく、「弱い立場にある大人」もセーフガーディングの対象とし、誰もが安心して、安全に活動できるサッカー環境づくりを目指している。Jリーグフット

ボール本部育成部の深野悦子氏は「セーフガーディングは全員が関わる取り組み。全てのベースにあるものであり、これなくしてJリーグの活動はあり得ない」と強調する。

セーフガーディングを徹底するためにJクラブの指導者やスタッフ、Jリーグアカデミーに所属する育成年代の選手たちに対するワークショップも定期的に行っている。そして、全クラブにそれぞれのセーフガーディングポリシーと行動規範があることも特筆すべき点だ。「Jリーグには60のクラブがあり、活動拠点や経営規模、環境なども異なる。セーフガーディングを推進するためにもクラブの独



自性が求められる」と深野氏。スタッフや選手、保護者それぞれの行動規範、問題が発生したときの報告・相談窓口やその手順なども整理し、シーズンの始まりには全ての選手と保護者に説明し、クラブで徹底できるように取り組んでいる。

また、セーフガーディングを広めていくため、ワークショップの教材データを公式ウェブサイト公開し、ダウンロードして誰もが活用できるようにしている。